

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教科：藝術

科 目： 音樂 I

单位数： 2 单位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（教育芸術社 MOUSA 1）

教科 芸術

の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】芸術のよさや美しさを深く味わい、その感動や気づきを創造的な表現に活かす。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛する心情を育むとともに、感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく。

科目 音樂 I

の目標：音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽文化と幅広く関わる素質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽をより深く理解するための基礎・基本事項（演奏技術と知識とも）を身につける過程で生まれる疑問・課題・興味がなる音楽的能力を押し上げることから、一人ひとりに欠かせない力である。	楽曲の特性や良さ・美しさを理解し、その意図を反映した表現ができること。自らの演奏表現の良否を見定めて、上達を目ざして工夫や改善に努めることができる。	音楽に向き合う自主性・積極性と、真摯な表現活動に継続する姿勢。様々なスタイルの美意識への理解を通して、幅広い音楽を受け入れる柔軟な心と音楽を生涯愛好する態度を持つ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	・ガイダンスを通し授業の概要を理解させる ・発声法への関心を促す ・校歌(主旋律)	・一年間の授業概要と留意事項、記録シートの説明 ・呼吸と共鳴に意識を持たせる ・校歌の詩を味わい、主旋律の練習をする	(知) 取り組みの姿勢が良好である(思) 作品の持ち味を表現に活かす工夫がある、説明や助言を取り入れ上達につなげている、練習過程における質問が的確である(態) 題材や活動への興味関心に優れる	○	○	○	4
	・イタリア歌曲 ・作品の美しい旋律を、イタリア語の明るさとよく響かせた声でのびのびと歌いあげる	「Caro mio ben」の独唱	(知) 知ることや技術を磨くことに前向きである、取り組みの姿勢が良好である、課題の達成度が高い(思) 楽曲の特性や良さを表現に活かす工夫がある、説明や助言を取り入れ上達につなげている、練習過程における質問が的確である(態) 題材や活動への興味関心に優れる、根気よく前向きに取り組める□ □ □	○	○	○	8
	・キーボードの基本奏法～課題曲へ	・簡単な楽譜の読み方を整理(大譜表) ・右左片手ずつ(C-dur音階) ・音符と鍵盤上の音の一致を確認 ・指くぐり、指またぎをスムーズに行う・左手のポジション固定のままでも均質な音を出せるようにする ・課題曲「メヌエットより」(J. S. Bach)	(知) 知ることや技術を磨くことに前向きである、取り組みの姿勢が良好である(思) 楽曲の特性や良さをよく吸収している、作品の持ち味を表現に活かす工夫がある、説明や助言を取り入れ上達につなげている、練習過程における質問が的確である(態) 題材や活動への興味関心に優れる、根気よく前向きに取り組む、他の生徒と助け合い和やかに練習する	○	○	○	8
	A キーボード下見テスト B 課題曲独奏テスト	A C-durの音階(上行形～下行形)を左右の音量バランスと一定のテンポを保ち通奏する B「メヌエット」全編の演奏	(知) 楽譜通りに演奏できる、均質な響きで滞らず滑らかに弾く(思) 作品の趣を音で表現できている、説明や助言を取り入れ上達につなげた(態) 主体的・前向きに練習に取り組んだ□ □ □ □	○	○	○	5
	・鑑賞 現代の音楽から、テーマをもとに様々なジャンルから楽曲を数曲提示し、各々の背景・特性・共通点などを比較しながら理解につなげるとともに自らの表現活動に活かす	・テーマ(原曲と編曲) 「オペラディ・オペラダ」(ピートルズ/ユースー・ンドゥール) ・テーマ(声と楽器) 「L.O.V.E」(サラ・ヴォーン/ゴンチチ)他	(知) 知ることを楽しんでいる、鑑賞の姿勢が良好である(思) 楽曲の特性や意図を理解し、自分なりの分析を行なっている(態) 未知の分野の作品も新鮮な感動を持って楽しんでいる	○	○	○	3
	独唱実技テスト	「Caro mio ben」 イタリア語による通唱	(知) 楽譜通りに歌えている、無理なく、響きのある発声を身につけ声量も十分である(思) 作品の趣を声で表現できている(態) 主体的・前向きに取り組んだ	○	○	○	2

2 学 期	・発声の仕組みと要領を理解して、 体で試す ・校歌(第2パート)～2部合唱へ	・授業の動機づけとして毎回行う ・主旋律との関係性を念頭におきつ つ歌う(和声、かけ合い) ・フレーズのまとまりや表情を意識 して厚みのある合唱にまとめる	(知) 知ることや技術を磨くことに前向きであ る、取り組みの姿勢が良好である、課題の達成 度が高い(思) 作品の持ち味を表現に活かして いる、説明や助言を取り入れ上達につなげた、練 習過程における質問が的確である(態) 興味を 持って積極的に取り組む、仲間と楽しく合唱し ている□	○	○	2	
	・楽典 「音楽の原子・音程」(ワークシ ートを活用) 「楽曲の個性を決める・音階」(音 源の活用) ・「音程」確認テスト(2度および 3度音程について出題)	(音程) 2音の隔たりの数え方及び度 数や種類による響きの差異や効果に ついて理解する (音階) 長短音階・半音階・5音音 階・琉球音階などの構成音を理解す る。ともに実際の作品を聴き、各々 の特徴を感じ取らせる。	(知) 知的好奇心に富み、取り組みの姿勢が良好 である(思) 学習過程における質問が的確である (態) 根気よく前向きに取り組む(記録シート)	○	○	○	6
	・ギターの基本奏法(フレットと音 階の関係、左右の手の作業)	・楽器について(各部の名称と働き) ・調弦の方法(EADGBEの合わせ方) ・C-dur音階練習(ワークシートを活用) 課題曲「エーデルワイス」 (曲の結びにアルペジオによるCコー ドを弾く)	(知) 知ることや技術を磨くことに前向きであ る、取り組みの姿勢が良好である、課題の達成 度が高い(思) 楽曲の特性や良さを見出しよく吸 収している、作品の持ち味を表現に活かすべく 工夫する、説明や助言を取り入れ上達につなげ ている、練習過程における質問が的確である (態) 取り組み作品及び活動への興味関心、意欲 に優れる、根気よく前向きに取り組む、他の生 徒と協力して活動する(記録シート)	○	○	○	12
	ギター実技テスト	「エーデルワイス」独奏 滑らかな指の移動により自然かつ音 楽的に旋律を歌わせる	(知) 楽譜通りに演奏できる、均質な響きがあ り、音量も十分である(思) 作品の趣を音で 表現できている、説明や助言を取り入れ上 達につなげた(態) 主体的・前向きに練習に取 り組んだ□ □ □ □	○	○	○	2
3 学 期	・西洋音楽史(解説と音源による)	・バロック～ロマン派の作曲家を主 人公に、その人物像と作品について 知る(ヴィヴァルディ～バッハ～ モーツァルト～ベートーヴェン～リ スト～ショパン)	(知) 知的好奇心に富み、取り組みの姿勢が良好 である(思) 楽曲の美しさや趣の理由を感知し、 作曲家の意図を汲んで楽曲を味わえる(態) 素直 な耳と心で、分け隔てなく味わっている□ □ □ □	○	○	○	6
	ハンドベル合奏(グループ別) ・課題曲提示(複数曲) ・ベルの鳴らし方 ・無理のない分担方法 以上については、全体に指導する クラス内発表会 (すべての演奏について記録シート に講評を記入させる)	・グループ分け ・選曲 ・使用音とその回数調べ受け持ち 音の配分 ・練習計画 ・発表順 以上については、生徒主体に進める	(知) 美しく響きのある音を出せる、個々の音色 が均一かつ滑らかに連なっている(思) 楽曲の個 性や良さを掴み、演奏に生かしている、教員の 助言を取り入れ、改善・上達につなげている(態) 経験者の少ない楽器の取り組みを試行錯誤を経 て完成させた	○	○	○	12
						合計	